

平成23年度
認定看護管理者制度 教育課程

ファーストレベル
セカンドレベル
サードレベル
募集要項



社団法人 東京都看護協会

目 次

I. 教育理念	3
II. 教育目的	3
III. 申込期間・開講期間一覧	3
IV. ファーストレベル	4
V. セカンドレベル	5
VI. サードレベル	6
VII. 申込要領	7
VIII. 受講申込用紙	8

<申込・問い合わせ先>

〒162-0815

東京都新宿区筑土八幡町4-17

社団法人 東京都看護協会 教育部研修係

TEL : 03-5229-1520 (代表) 03-5229-1731 (研修係直通)

FAX : 03-5229-1524

E-mail: ken@tna.or.jp

【重要なお知らせ】

認定看護管理者認定審査受験資格要件および 教育課程受講要件が変更となります

1. 認定看護管理者認定審査受験資格要件について

要件	旧 平成 24(2012)年 第 16 回認定審査まで適応	要件	新 平成 25(2013)年 第 17 回認定審査から適応
1	ファーストレベル、セカンドレベル及びサードレベルの認定看護管理者教育の全課程を修了している者。	1	認定看護管理者教育課程サードレベル教育課程を修了している者。
2	看護部長または看護部長に相当する任にある者で、過去に合計 4 週間（20 日間）以上の看護管理研修を受けている者。		
3	副看護部長または看護部長に相当する職位に 1 年以上就いている者で、過去に合計 4 週間（20 日間）以上の看護管理研修を受けている者。		

※要件 4～6 の内容は変更なし

2. 認定看護管理者教育課程受講要件について

	※【新】 平成 24(2012)年度から適応	※【旧】 平成 23(2011)年度まで適応
セカンドレベル	③認定看護管理者ファーストレベル教育課程を修了している者。 <u>または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に 1 年以上就いている者。</u>	③認定看護管理者ファーストレベル教育課程を修了している者。 または認定看護管理者審査受験資格のある者。
サードレベル	③認定看護管理者セカンドレベル教育課程を修了している者。 <u>または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に 1 年以上就いている者。</u>	③認定看護管理者セカンドレベル教育課程を修了している者。 または認定看護管理者審査受験資格のある者。

この表の※の部分が変わっていましたので変更しました。

※詳細は、日本看護協会ホームページ [認定看護管理者のページ](#)をご覧ください。

I. 教育理念

多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族及び地域住民に対して質の高い看護サービスを提供することをめざし、様々な状況に対応できる看護管理者を育成する。以って、看護の水準の維持及び向上に寄与し、保健医療福祉に貢献する。

II. 教育目的

教育課程名	教育目的
ファーストレベル	1) 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度の習得をめざす。 2) 看護を提供するための組織化並びにその運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度の習得をめざす。 3) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力の拡大をめざす。
セカンドレベル	1) 第一線監督者または中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度の習得をめざす。 2) 施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性をはかりながら担当部署の看護目標を設定し、その達成をめざし看護管理過程が展開できる能力の拡大をめざす。
サードレベル	1) 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護の理念を掲げ、それを具現化するために必要な組織を構築し、運営していくことのできる能力の拡大をめざす。 2) 看護事業を起業し運営するにあたって必要となる経営管理能力に関する知識・技術・態度の習得をめざす。

III. 申込期間・開講期間一覧

教育課程名	定員	申込期間 * 申込期間の最終日 必着のこと	開講期間	受講料	受講決定 時期
ファーストレベル 第1回	70名	4月 1日 (金) ゝ 4月15日 (金)	5月25日 (水) ゝ 7月14日 (木)	会員 130,000円 非会員 250,000円	4月下旬
ファーストレベル 第2回	70名	*第1回・第2回同時 募集です	9月21日 (水) ゝ 11月7日 (月)		
セカンドレベル	30名	5月 1日 (日) ゝ 5月16日 (月)	7月19日 (火) ゝ 9月15日 (木)	会員 180,000円 非会員 300,000円	6月上旬
サードレベル	30名	6月 1日 (水) ゝ 6月15日 (水)	11月7日 (月) ゝ 1月27日 (金)	会員 250,000円 非会員 350,000円	7月上旬

*会員とは日本看護協会会員です。

*申込時点で入会手続きがお済でない方は非会員扱いとなります。

IV. ファーストレベル

1. 受講要件

- 1) 日本国の保健師、助産師および看護師のいずれかの免許を有する者。
- 2) 保健師、助産師および看護師のいずれかの免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。
- 3) 管理的業務に関心があり、管理的業務に従事することを期待されている者。

2. 教育課程と時間数

教科目	時間	単位	ね ら い	単 元
看護管理概説	15	1	1.看護管理の歴史的発展過程を通して管理のあり方を考察するとともに、管理の原理・原則を理解し、管理者としての役割を学ぶ	1)新しい時代の看護の課題 2)看護管理とは 3)看護管理者の役割 4)保健医療福祉動向
看護専門職論	30	2	1.看護に関する制度や理論をより深く学び、自己の看護観を深め専門職としての自立性を確立する	1)看護専門職論 2)看護専門職の機能と活動 3)看護関連法規 4)看護の定義と概念
ヘルスケア提供システム論	15	1	1.看護管理過程を展開する上での条件となる保健医療福祉制度等を理解する	1)組織の成り立ちと構造 2)ヘルスケアシステム論
看護サービス提供論	45	3	1.サービスの基本的概念を理解し、看護職として対象となる人々の権利を尊重し、安全を保障しながら、より質の高い看護サービスを提供するための方法について学ぶ 2.提供したサービスの評価を行うための知識・技術を習得する	1)問題解決 2)看護サービス提供論 3)看護サービスの質管理
グループマネジメント	30	2	1.組織の目的を達成するために必要となる行動がとれるよう組織集団の基本概念や集団の力動的諸機能を学ぶ 2.チームリーダーとしての役割を自覚し、柔軟に行動できるよう自己能力の拡大する	1)グループマネジメントの基礎理論 2)看護チームのマネジメント 3)チーム医療と連携
看護情報論	15	1	1.情報の概念を理解し、看護管理に活用できる	1)看護と情報 2)看護実践に活かす情報のあり方 3)看護サービスと情報管理

3. 学習方法

- 1) 講義・演習・自己学習
- 2) 担当講師から提示された課題についてレポートを提出

4. 修了の要件

- 1) レポート審査結果がC以上（A・B・C・Dの4段階）であること。
- 2) 各教科目の時間数の4/5以上出席していること。

V. セカンドレベル

1. 受講要件

- 1) 日本国の保健師、助産師および看護師のいずれかの免許を有する者。
- 2) 保健師、助産師および看護師のいずれかの免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。
- 3) ※以下のいずれかの要件を満たしていること

①認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程を修了している者。
②看護部長または看護部長に相当する任にある者で、過去に合計4週間（20日間）以上の看護管理研修を受けている者。
③副看護部長または副看護部長に相当する職位に1年以上就いている者で、過去に合計4週間（20日間）以上の看護管理研修を受けている者。
④看護系大学院において看護管理を専攻し修士号を取得している者で、実務経験が通算5年以上あり、うち修士課程修了後の実務経験が3年以上である者。
⑤師長以上の職位での管理経験が3年以上ある者で、看護系大学院において看護管理を専攻し修士号を取得している者。
⑥師長以上の職位での管理経験が3年以上ある者で大学院において管理に関連する学問領域の修士号を取得している者。

2. 教育課程と時間数

教科目	時間	単位	ね ら い	単 元
医療経済論	30	2	1. 医療経済の構造・現状について学び、変革が進む医療システムについて理解を深める	1) 医療経済論 2) 看護活動の経済的評価 3) 看護経済論
看護組織論	60	4	1. 組織運営に関する諸理論に基づき、担当部署の看護管理過程を評価し、質向上のための方策を見いだす 2. 他職種、他部門、他施設・地域等との協働・連携の方法論について学ぶ 3. 組織的看護サービスの質評価・改善の方法について学ぶ	1) 看護管理に必要な知識体系 2) 組織分析(組織診断) 3) 組織文化と組織倫理 4) 保健・医療・福祉サービス提供組織の仕組み 5) ヘルスケアサービスの展望 6) リスクマネジメント 7) 看護管理過程と目標管理 8) 看護管理研究の活用
人的資源活用論	60	4	1. 組織の理念、経営目標を達成するための中心的要素である人材の確保・育成・活用等、人的資源管理に必要な知識・技術・態度について学ぶ 2. 看護職者のキャリア開発について、概念・理論・具体的方法について学ぶ	1) 看護人的資源開発論 2) 看護人事・労務管理 3) 人的資源活用 4) 動機付け 5) ストレスマネジメント・タイムマネジメント
情報テクノロジー	30	2	1. 情報テクノロジーの保健医療福祉への導入・活用の現状を分析し、将来を展望できる	1) 看護管理を支援する情報技術 2) 根拠に基づく看護実践(EBN)の考え方 3) 情報検索

3. 学習方法

- 1) 講義・演習・自己学習
- 2) 担当講師から提示された課題についてレポートを提出

4. 修了の要件

- 1) レポート審査結果がC以上（A・B・C・Dの4段階）であること。
- 2) 各教科目の時間数の4/5以上出席していること。

VI. サードレベル

1. 受講要件

- 1) 日本国の保健師、助産師および看護師のいずれかの免許を有する者。
- 2) 保健師、助産師および看護師のいずれかの免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。
- 3) 以下のいずれかの要件を満たしていること。
 - ①認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程を修了している者。
 - ②～⑥は前頁のセカンドレベルの項と同じ。

2. 教育課程と時間数

教科目	時間	単位	ね ら い	単 元
保健医療福祉政策論	30	2	1. 保健医療福祉の政策動向を理解し、それらが看護管理上に与える影響を考える 2. 看護現場の状況を分析・データ化し職能団体、行政機関等へ提示できる能力を養う	1) 社会保障の概念 2) 諸外国保健医療福祉 3) 保健医療福祉政策 4) 看護制度・政策 5) 制度・政策に影響を及ぼす看護管理者 6) 保健医療福祉政策演習
保健医療福祉組織論	45	3	1. 社会が求めるヘルスケアサービスをアセスメントし、目的の達成を目指した看護の組織化をはかるための諸理論を学習する	1) 保健医療福祉サービスのマーケティング 2) 地域保健医療福祉計画 3) 組織デザイン論 4) ヘルスケアサービスの連携 5) 保健医療福祉組織論演習
経営管理論	75	5	1. 経営者あるいはその一員として経営管理の視点に立ったマネジメントが展開できる能力を養う	1) 医療福祉と経済論 2) 医療福祉経営 3) 財務管理 4) 経営分析 5) ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 6) 看護経営の今後のあり方 7) 経営管理論演習
経営者論	30	2	1. トップマネジャーが備えるべき要件について学ぶ	1) 経営者論 2) 管理者の倫理的意思決定 3) 起業家論 4) 経営者論① 5) 経営者論②

3. 学習方法

- 1) 講義・演習・自己学習
- 2) 担当講師から提示された課題についてレポートを提出

4. 修了の要件

- 1) レポート審査結果がC以上（A・B・C・Dの4段階）であること。
- 2) 各教科目の時間数の4/5以上出席していること。

Ⅶ. 申込要領

1. 提出書類

教育課程別	提出書類
ファーストレベル	1) ファーストレベル受講申込書 * 第1回への申込は「様式5-①」を第2回への申込は「様式5-②」をそれぞれ使用してください。
セカンドレベル	1) セカンドレベル受講申込書 (様式6-1) 2) セカンドレベル受講要件記入用紙 (様式6-2) 3) 勤務証明書 (様式8) *受講要件2~6の場合
サードレベル	1) サードレベル受講申込書 (様式7-1) 2) サードレベル受講要件記入用紙 (様式7-2) 3) 勤務証明書 (様式8) *受講要件2~6の場合 4) 小論文 ①テーマ:「あなたが看護管理者として取組もうとしている課題」 ②作成規定: A4用紙1枚(1600字程度)、パソコン使用

2. 申込方法 (ファーストレベル・セカンドレベル・サードレベル共通)

- 1) 該当する受講申込書に必要事項を記載してください。
- 2) 返信用封筒(定形長3サイズ)の表に、返信先の住所、施設名、代表者名を記入し、郵送でお送りください。

<受講申込書記載上および提出上の注意点>

- 申込書類の記載漏れがないように記載し、提出前にご確認ください。書類に不備があった場合は、受付られませんのでご注意ください。
- FAX・Emailでの申込は受付できません。
- 複数名の申込がある場合は、施設で取りまとめてお送りください。
- 申込書類は東京都看護協会のホームページからもダウンロードできます。

3. 受講の決定方法

認定看護管理者教育課程運営・審査委員会において、書類審査により行います。

4. 受講決定通知

応募者の受講可否の通知を施設代表者宛に文書にて通知いたします。

受講決定者には「受講券」と「払込取扱票」を送付します。

5. 受講料の納入

- 1) 同封の「払込取扱票」で指定期日までに郵便局から払込んでください。
- 2) 指定期日までに払い込めない事由が生じた場合、払込ができなかった場合は必ず電話でご連絡ください。
- 3) 納付いただいた受講料は、原則として返金いたしません。
- 4) 郵便局印のある「払込票受領証」を受講料の領収書に代えさせていただきます。

【セカンドレベル受講要件記入用紙】

様式6-2

以下6項目の受講条件のうち該当する番号1つに○をつけ、必要書類を添付してください。
ファーストレベル修了者は、必要事項を記入してください。

番号	受講条件	必要書類(添付)
1	<p>認定看護管理者(ファーストレベル)教育課程を修了している者。</p> <p>ファーストレベル認定機関名</p> <p>_____</p> <p>修了年月日 : _____年 _____月 _____日</p>	<p>○セカンドレベル受講申込書(様式6-1)</p> <p>○セカンドレベル受講要件(様式6-2)</p> <p>○ファーストレベル修了証明書の写し</p>
2	<p>看護部長もしくは看護部長に相当する任にある者で、過去に合計4週間(20日間)以上の看護管理研修を受けている者。</p>	<p>○セカンドレベル受講申込書(様式6-1)</p> <p>○セカンドレベル受講要件(様式6-2)</p> <p>○看護管理研修の研修修了証の写し</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p>
3	<p>副看護部長もしくは副看護部長の相当する職位に1年以上就いている者で、過去合計4週間(20日間)以上の看護管理研修を受けている者。</p>	<p>○セカンドレベル受講申込書(様式6-1)</p> <p>○セカンドレベル受講要件(様式6-2)</p> <p>○看護管理研修の研修修了証の写し</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p>
4	<p>看護系大学院において看護管理を専攻し、修士号を取得している者。ただし、実務経験が通算5年以上あり、うち3年間は修士課程終了後の経験であること。</p>	<p>○セカンドレベル受講申込書(様式6-1)</p> <p>○セカンドレベル受講要件(様式6-2)</p> <p>○当該修士課程修了証の写し</p> <p>○看護管理専攻の証明ができるもの</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p>
5	<p>師長以上の職位での管理経験が3年以上ある者で、大学院において管理に関連する学問領域の修士号を取得している者。</p>	<p>○セカンドレベル受講申込書(様式6-1)</p> <p>○セカンドレベル受講要件(様式6-2)</p> <p>○当該修士課程修了証の写し</p> <p>○看護管理専攻の証明ができるもの</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p>
6	<p>師長以上の職位での管理経験が3年以上ある者で、看護系大学院において看護管理を専攻し、修士号を取得している者。</p>	<p>○セカンドレベル受講申込書(様式6-1)</p> <p>○セカンドレベル受講要件(様式6-2)</p> <p>○当該修士課程修了証の写し</p> <p>○看護管理専攻の証明ができるもの</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p>

平成23年度 サードレベル 受講申込書

様式7-1

研修コード:6300

記入日:平成 年 月 日

申込期間:6月1日~6月15日

*記入欄には正確に記載してください。

※受付No.	ふりがな 氏名	性別 男・女	いずれかに✓をつけてください。 <input type="checkbox"/> 東京都看護協会会員 <input type="checkbox"/> 他県看護協会会員 <input type="checkbox"/> 非会員
	生年月日 昭和 年 月 日 (歳)	実務年数(通算) 年 月 日	
施設No.(4桁)	施設名		施設規模(病床数) 床
施設住所 〒		TEL :	
自宅住所 〒		TEL :	
勤務領域 <input type="checkbox"/> 病棟(科) <input type="checkbox"/> 外来(科) <input type="checkbox"/> その他()			
職位と在職年数(現在の職位を✓してください)			
<input type="checkbox"/> 看護部長職		年 月 ~	年 月 (年 ヶ月)
<input type="checkbox"/> 副看護部長職		年 月 ~	年 月 (年 ヶ月)
<input type="checkbox"/> 看護師長職		年 月 ~	年 月 (年 ヶ月)
<input type="checkbox"/> その他 ()			
施設の状況	<input type="checkbox"/> サードレベル修了者がいる(名) <input type="checkbox"/> サードレベル修了者がいない <input type="checkbox"/> 不明		

【施設または看護部門責任者の推薦】(*自己推薦の場合は不要)

*申込者の管理上の実績や今後の期待等をお書きください。

<p>推薦者職位</p> <p>推薦者氏名</p> <p>印</p>		
------------------------------------	--	--

●個人情報の取り扱いについて、当協会の個人情報保護規定に基づき、個人情報の取得・利用を適切に行います。研修会のお申込に際して提供していただく個人情報に関して、研修会に伴う書類作成・発送に用い、この利用範囲を超えて個人情報を取り扱うことはいたしません。

【サードレベル受講要件記入用紙】

様式7-2

以下6項目の受講条件のうち該当する番号1つに○をつけ、必要書類を添付してください。
セカンドレベル修了者は、必要事項を記入してください。

番号	受講条件	必要書類(添付)
1	<p>認定看護管理者(セカンドレベル)教育課程を修了している者。</p> <p>セカンドレベル認定機関名</p> <p>_____</p> <p>修了年月日 : _____年 _____月 _____日</p>	<p>○サードレベル受講申込書(様式7-1)</p> <p>○サードレベル受講要件(様式7-2)</p> <p>○セカンドレベル修了証明書の写し</p> <p>○小論文</p>
2	<p>看護部長もしくは看護部長に相当する任にある者で、過去に合計4週間(20日間)以上の看護管理研修を受けている者。</p>	<p>○サードレベル受講申込書(様式7-1)</p> <p>○サードレベル受講要件(様式7-2)</p> <p>○看護管理研修の研修修了証の写し</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p> <p>○小論文</p>
3	<p>副看護部長もしくは副看護部長の相当する職位に1年以上就いている者で、過去合計4週間(20日間)以上の看護管理研修を受けている者</p>	<p>○サードレベル受講申込書(様式7-1)</p> <p>○サードレベル受講要件(様式7-2)</p> <p>○看護管理研修の研修修了証の写し</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p> <p>○小論文</p>
4	<p>看護系大学院において看護管理を専攻し、修士号を取得している者。ただし、実務経験が通算5年以上あり、うち3年間は修士課程終了後の経験であること。</p>	<p>○サードレベル受講申込書(様式7-1)</p> <p>○サードレベル受講要件(様式7-2)</p> <p>○当該修士課程修了証の写し</p> <p>○看護管理専攻の証明ができるもの</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p> <p>○小論文</p>
5	<p>師長以上の職位での管理経験が3年以上ある者で、大学院において管理に関連する学問領域の修士号を取得している者。</p>	<p>○サードレベル受講申込書(様式7-1)</p> <p>○サードレベル受講要件(様式7-2)</p> <p>○当該修士課程修了証の写し</p> <p>○看護管理専攻の証明ができるもの</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p> <p>○小論文</p>
6	<p>師長以上の職位での管理経験が3年以上ある者で、看護系大学院において看護管理を専攻し、修士号を取得している者。</p>	<p>○サードレベル受講申込書(様式7-1)</p> <p>○サードレベル受講要件(様式7-2)</p> <p>○当該修士課程修了証の写し</p> <p>○看護管理専攻の証明ができるもの</p> <p>○勤務証明書(様式8)</p> <p>○小論文</p>

(勤 務 証 明 書)

平成 年 月 日

氏 名 _____ 昭和 年 月 日生 () 歳

1. 在職期間

上記の者は、当施設において

_____ 年 月より、 _____ 年 月まで 計 _____ 年 _____ カ月間

勤務していることを証明します。

2. 職位

上記の者は、当施設において

_____ 年 月より、 _____ 年 月まで 職位 _____

であることを証明します。

施 設 名 : _____

所 在 地 : _____

施 設 長 名 : _____ 印